

令和5年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

重点目標	課題	評価指標と活動計画		実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力をもった生徒を育成する。	(1) 指導方法の工夫・改善	評価指標	1	「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は79.5%(-10.5)であり、今年度は目標を達成できなかった。	B	B	生徒の学習習慣について、評価がCになっているのは、家庭学習時間調査の結果だけになっているからではないか。	○日々の業務で多忙な教員も多く、授業公開週間に参観するのも難しい場合も多い。業務を精選する等、工夫や改善を図る必要がある。 ○次年度は全学年で観点別評価を実施することになる。観点別評価についての課題や効果を検討し、改善点について検討していく。
			2	「指導方法や内容の精選、観点別学習状況評価の内容や教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は89.5%(-8.0)であり、今年度も概ね目標を達成できた。				
		活動計画	1	授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	授業研究週間内において458の授業が公開されており、全ての教職員が協働的問題解決学習を実践することができた。また、教員アンケートにおいて100%の教員が協働的問題解決型の授業の効果を実感している。				
			2	各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法や評価の工夫や改善について検討する。	教科会を定期的に行うことはできなかったが、各教科で授業進度や評価基準の確認、考査問題の吟味を通して、指導法および評価方法の工夫や改善を行った。				
	(2) 計画性や目的意識を持った学習習慣や態度の育成	評価指標	1	「週末課題や確認テストに意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上 「定期考査に向けて計画的に学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価75%以上	週末課題に関する肯定的評価80.0%、定期考査に関する評価72.1%であり、概ね目標を達成できた。	B	B	家庭学習時間の量だけでなく、どれだけ集中しているかが重要であり、小テスト等の成績ではないか。 質問項目について、もう少し客観的なものが見えるように工夫が必要である。 量ではなく質をはかれるように、質に着目したアンケートの実施は不十分である。	○二極化が進んでいる傾向も見られ、努力をしている生徒がいる一方で毎日の学習習慣が確立できていない生徒が増加している。日々の授業と課題やテストを関連付けて、入学時から根気強く指導を継続させる必要がある。テストのための学習ではなく、自身の進路実現のための学習であると意識づけたい。
			2	「実力テスト・校外模試に向けて自分の目標が設定できている」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価が69%と低い値である。特に2年生では59%と低迷している。				
		活動計画	1	シラバスや手帳、面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	手帳を活用した学習スケジュール管理や各教科・学年での学習方法ガイダンスなどを通して、生徒への啓発を行ってきた。また、長期休み以外にも各学年ごとに個別面談を実施し、意識の高揚を図った。				
			2	進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに、具体的な目標を立てるよう指導する。	進学室前の掲示板は、毎日チェックし、試験情報を掲示した。				
	(3) 家庭学習の充実	評価指標	1	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上。	全生徒の平均2.6時間。1年生で2.3時間、2年生で2.3時間、3年生で3.2時間だった。	C	C	家庭学習習慣の定着については、毎年、状況が悪化し続けており早急な手立てが必要な重要課題である。特に、3年次での減少は意識付けから行う必要がある。	○家庭学習時間の減少とともに、校外模試の成績も下降してきている。成績下位層が増えてきていることもあるが、入学当初よりも学習時間が少なくなっており、共通テストになってから短期間で間に合わせるができない内容になっているという現実が切実なものとして理解できていない状況にもある。明倫セミナーや大学説明会等を実施することで日々の行動への変化を促しているものの、一部の生徒の意識変革に留まってしまっている。昨年度以上に3年生の学習時間の現象が目立ち進路実現に苦労したことから1、2年生への呼びかけが急務。
			2	家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	1時間未満の生徒は3%だった。				
		活動計画	1	家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	調査を行うごとに各学年で生徒への呼びかけを行ってきた。学習意欲の高い生徒は習慣付いているが、意識の低い生徒との差が大きくなってきていると思われる。また学習以前の生活リズムや意欲の部分での課題も目立つようになってきた。				
			2	HR・学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、授業内容の振り返りの重要性を理解させる。	長期休業前の集会や明倫セミナー、進路講演会、HRでの呼びかけは行ってきたが、気持ちの持続ができない傾向が見られる。				
	(4) 興味・関心を高める教育	評価指標	1	「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上 「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は87.2%(-5.3)であり、昨年度よりも数値が下がったが、今年度も概ね達成できた。また、生徒の肯定的評価は86.2%(+3.7)であり、目標値を達成できた。	B	B	教職員の授業改善等に加え、SSH等での多様な学びの場の提供により、生徒の評価は非常に高い。	○地方において科学技術人材を育成するため、ICTを活用した個別最適な多様な学びを実践していく必要がある。新しい評価の観点に適応したカリキュラムを実践・開発する。
			2	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は87.3%で目標を上回った。				
		活動計画	1	文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	SW-ingや課題研究の活動を通して、生徒が文献や書物、公文書等に接する機会を積極的に設定した。それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。				
			2	魅力あるSSH事業を展開し、未知の事柄への興味(知的好奇心)を向上させる。	肯定的評価80.7%となり、様々なSSH事業が有機的につながったと考えられる。				
	(5) 家庭との連携	評価指標	1	PTA総会の保護者参加者数の割合50%以上、学年進路保護者会の参加者数の割合、各学年75%以上	PTA総会の参加者数は全体で157名、約32%だった。学年進路保護者会の参加者数の割合は、2年生が約69%で目標に達しなかったが、1、3年生はそれぞれ、約88%、78%だった。	B	B	PTA総会を3年ぶりに実施することができた。 ホームページの更新回数は計画より少なくなったが、情報公開のタイミングや頻度を改善して肯定的評価は改善した。 学年進路保護者会は、2年生が少し少なかったが、ほぼ目標通りに実施できた。	○PTA総会に先立つ授業参観や、総会終了後の学級懇談への参加希望者は多い一方、総会自体の参加者は少ないというのが現状である。コロナ禍以降、各課連絡については資料配付のみの形を取っているのも理由の一つと考えられる。時間的な制約もあるが、従来通りの方法に戻ることも検討すべきかもしれない。
			2	「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価70%以上	「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価71.4%(昨年度69.6%)で目標を上回った。				
		活動計画	1	PTA総会や学年進路保護者会への積極的な参加を促す。また、進路課と連携しながら、各学年の保護者に応じた情報提供ができるよう保護者会の内容等を充実させる。	4年ぶりに会場開催でPTA総会を実施した。				
			2	ホームページの更新を年間200回以上実施する。	ホームページの更新は1/31現在、170回程度の更新であった。				

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

2	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脇高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上	脇高手帳の利用に関しては、生徒の評価は53.5、教員の評価は82.4%とどちらも目標に達していない。ポートフォリオの作成指導は、担任だけでは難しかった。授業やHRでの指導は教員評価100%と取り組みに力を入れることができた。	B	A (所見) 評価指標について、12項目中達成できたものが8項目、部分的に達成できたものが2項目、達成できなかったものが2項目であった。 脇高手帳を有効に利用することにより、日々の反省や目標設定ができるが、活用し切れていない恐れがある。SSHへの取組が志望分野探しに役立つ。	保護者の期待に応える進学実績が出ていることは大変素晴らしい。 部活動の充実・国立大学合格者数増加は嬉しい。是非、東京大学への進学も期待しています。 卒業生が、高校時代の地域の課題についての探究活動の経験に基づき、自治体の職員等に採用され活躍している。今後も、行政と高校との連携を深めることが望ましい。 受験方法が多様化しており、SSH（探究活動）で身につけたことが活かされていると思われる。 SSHのテーマについて、地域性を活かした研究課題を生徒がうまく見つけているので、それを包括できるようなテーマが望ましいのではないかと。 SSHの成果発表からは、生徒の成長がうかがえる。SSH事業は是非継続をお願いしたい。	○日々の生活についてはうまく脇高手帳を利用できていると思うが、探究活動や校外行事の記録としては、まだまだ不十分である。進路目標や、計画、ポートフォリオとしての記録を自ら積極的に進めなければ、出願に際して問題が起きているという実態ももっと提示していく必要がある。	
				2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立つ」生徒の肯定的評価70%以上	肯定的評価は62.7%で目標を下回った。今年度は特に講演会は文理関係のない内容であったが、生徒の進路希望に多い医療系は少なかつたためと考える。					
			活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	小論文や探究活動など、進路に関する諸活動には多くの生徒が積極的に参加していたが、全く参加しない生徒もおり、ここでも二極化が進んでいる。					
				2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	サイエンスカフェの回数を増やし、昨年度に続き、生徒玄関前に掲示するスペースを設け、生徒が主体的に自分の進路を考えるきっかけとした。					
		(2)	個々の希望や適性に合った多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上 「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	保護者評価、89.9%。				A
					2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	保護者評価は89.6%と高かったが、生徒の評価は特に利用機会が少ない1・2年生での評価は70%程度と少なかつた。				
	活動計画			1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	各学年とも、個別面談や三者面談は力を入れており、充実していた。					
				2	高大接続改革の情報を含め、必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』や進路保護者会の内容を充実させる。	各学年での進路保護者会は高い出席率で、多くの保護者から好評であった。					
	(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	共通テストなし推薦の段階で、16名の合格者 3/25現在、109名合格(68.1%)	A				
				2	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は生徒85.8%、保護者81.3%であった。					
			活動計画	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	共通テストになってから「追い込み型」での逆転合格が厳しくなっているものの、早朝より深夜まで、さらに休日でも使い丁寧に進路実現に向けて担任を中心に進路実現につなげている。					
				2	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	顧問はよく配慮している。今後さらに生徒保護者に向けて、重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。					
	(4)	将来、社会において活躍しうる脇高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事には、積極的・主体的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価85%以上	肯定的評価は92.3%であった。	A				
				2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は93.2%で目標を上回った。					
			活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を、生徒主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	生徒会執行部を中心に、また各行事で実行委員を募り生徒主体で積極的に運営に取り組んだ。					
				2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	定期的に職員朝礼で呼びかけ、朝のHRや学期の初めに生徒への周知徹底を行った。あいさつ運動に関しては、生徒会協力の下実行し、意識が向上した。					
	(5)	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動など、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価65%以上	生徒の肯定的評価は72.4%であった。	A				
				2	「社会の課題解決に関する探究活動に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価は78.9%で目標を上回った。					
			活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各クラスでの掲示や生徒会からの呼びかけ等啓発に努めた。JRC部も昨年に引き続き、積極的に全校生徒が参加できる取り組みを考え実施した。					
				2	探究活動や成果の報告会などを通して生徒間の経験や知見を共有させ、社会への関心を高める。	地元企業や地方自治体など多様な主体と連携した課題研究に取り組み、全生徒が参加する成果発表会を実施し、自治体からも参加いただいた。					
	(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「GTECや英検の受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は73.0%(+6.2)と目標値を上回り、英語外部検定試験への積極的な姿勢が見られた。	A				
				2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の肯定的評価が55%以上	生徒の肯定的評価は56.7%(+0.1%)で目標値を上回った。					
			活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め、GTECや英検の受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニング、スピーキング、パフォーマンステストを取り入れる。	GTECは1・2年生の全員、英検については2級205名、準2級は91名が受験した。プレゼンテーションやディベート、インタビューテストなど、様々な形態のパフォーマンステストを充実させることにより、コミュニケーション力を伸ばすための取り組みができた。またALTを活用することによって、活動の内容を深め効率を高めることができた。					
				2	書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	教科書の単元に関連する内容や、プレゼンテーション学習において、インターネット等を活用して必要な情報を取り入れ、他者に伝えるよう努力できた。					

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

3	自己有用感や自己肯定感を育み、仲間と協働できる豊かな心を持ち、公共心と社会性を備えた、たくましい生徒を育成する。	(1)	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は91.3% (+2.0) と目標数値を上回ることができた。	A	A	評価指標について、14項目中達成できたものが12項目、部分的に達成できたものが1項目、達成できなかったものは1項目であった。	○環境美化については、学校内外でゴミの分別や環境整備に今後とも取り組んでいきたい。また、学期に一回の学校近くの大谷川周辺の清掃活動も継続していきたい。 ○防災については、引き続き避難訓練やJアラートでの訓練を通して生徒に意識付けをしていき自ら行動できるようにしてもらいたい。また、高校生防災士の受講生を確保して生徒たちが防災に対しての知識を得ていざという時にリーダーとなって行動できるようになってもらいたい。					
				2	「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は82.1% (+1.9) と目標数値を上回ることができた。										
				活動計画	1	快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できており、教室内の環境整備にも努めている。また、各学年で学校周辺の清掃活動を行っている。									
				2	高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	避難訓練では避難経路の確認や防災に対する意識の向上に努めた。3月の防災訓練は参加体験型として、煙体験避難訓練や防災クラブ員がリーダーとなって消火訓練等を行う予定である。										
		(2)	集団や社会の一員として協力	評価指標	1	「ホームルーム活動や部活動を通して、自分自身が成長できていると感じる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は87.2%であった。	A	A			実施形態を工夫しながら避難訓練を実施し、防災意識の向上に努めており、成果がでてきている。	○協働的な雰囲気の中でホームルーム活動や部活動が行われている。集団への帰属意識を高め、さらにその中で自分の果たす役割を常に考えさせ、生徒自身を成長させる活動を進めていきたい。			
				2	「授業や小論文・講演会などを通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は80.5%(+0.3)となり、目標を達成できた。										
				活動計画	1	ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	コロナ禍での経験を生かしながら、新たな活動にも取り組むことができるようになり、生徒を成長に繋がる機会が増えてきたと考えられる。									
				2	主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な探究の時間、学校行事を実施する。	教科学習や探究活動において協働性を育んだ他、生徒会役員選挙を活用した模擬投票を実施したり、3年生の年金講座を通して、社会の一員としての自覚や主権者意識を高める取り組みを行った。										
		(3)	基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価90%以上 交通事故等を昨年度より減少させる。	生徒の肯定的評価は94.1%で目標を上回り、交通事故車数も昨年度より減少した。	B	B					交通安全・交通マナーに対する生徒の意識は高い。しかし、地域からの苦情はなかなか減っていない現状がある。 携帯電話やスマートフォンについては、利用方法についての意識は高い。しかし、利用時間に対する生徒の自覚を促すとともに、保護者の理解と協力を求めていく必要がある。 悩みや不安を抱えた生徒や保護者からの相談に誠実に対応し、スクールカウンセラーによるカウンセリングを定期的実施し、必要に応じて関係機関と連携できており、生徒・保護者の満足度も高い。	○朝のHRや集会などを通して交通安全や交通マナーについて周知を徹底したが、自転車の通行マナーや公共の場におけるマナーに関して苦情が多く寄せられており課題がある。またヘルメットの着用率の向上も求められる。 ○携帯電話やスマートフォンをルールやマナーを意識して使用しているという生徒の割合は高い。しかし、依然としてSNSでのトラブルなどが発生しており、使用に関しては注意喚起を行っていく必要性がある。	
				2	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上 「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上	利用時間に関して生徒の肯定的評価は66.7%、保護者の肯定的評価は54.1%で目標値を達成できなかった。マナーに関しては生徒の肯定的評価は90.9%、保護者は82.6%で目標を達成した。										
				活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を行う。また、登校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	定期的に職員朝礼で呼びかけ、朝のHRや学期の初めに生徒への周知徹底を行ったバイクの安全運転実技講習会や車体検査を実施し、交通安全教育を徹底した。事故車件数は原付が2件、全体でも8件と減少した。									
				2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォンの利用時間やルール・マナーを意識して使用させる。	定期的に職員朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底をはかった。スマートフォン安全教室も実施し、ルール・マナーの向上に努めることができた。また、保護者の協力もあり90%近くの生徒が十分意識して使用している。										
		(4)	保健指導の充実	評価指標	1	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして、自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価70%以上 「掲示物などを通じて、時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができています」教職員の肯定的評価90%以上	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして、自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価72.0% 「掲示物などを通じて、時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができています」教職員の肯定的評価92.3%	A	A							○生活習慣や食生活をはじめ、感染症対策も日常となり、健康情報に関しては生徒自身が行動判断するための正しい判断材料を提供していく必要がある。栄養士や保健師等専門家の講演会を企画する予定である。
				2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員の肯定的評価94.9%										
				活動計画	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	保健だよりは基本的に月に1回発行し、教室掲示で生徒がいつでも読めるようにしている。									
2	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実を努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)			教職員は学年団ごとに緊急時対応講習会を実施し、生徒には消防の普通救命講習会を開催し、予防も含めた校内救急体制を確認することができた。												
(5)	教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価90%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価85%以上 「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」教職員の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は92.8%、保護者の肯定的評価91.6%、「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」の教員の肯定的評価は94.9%、「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」の教員の肯定的評価 89.7%でほぼ目標を達成することができた。	A	A	○生徒や保護者の肯定的評価を過信することなく、担任・学年・部活動顧問等で連携しながら生徒の悩みに迅速に対応していく。 ○スクールカウンセリングを希望する生徒や保護者は多いが、時間に限りがあり希望者全員の要望に応えられないことがある。配置時間を増やしてもらえよう要望していきたい。 ○子どもと家族の関係が希薄で、悩みや不安の原因が分かるまでに時間を要したり、家庭の協力が得られにくかったりするケースが増えている。担任や学年団だけでなく、関係機関とも連携しながら早期に対応していくことが課題である。								
		2	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備、授業づくりの工夫ができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は94.9%で目標を達成することができた。												
		活動計画	1	悩みや不安など、様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	人権教育課と連携し、特別支援教育についての職員研修を実施した。配慮を要する生徒が増えてくるなか、合理的配慮について具体的に学ぶことができる機会となった。											
		2	担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し、組織として、迅速かつ臨機応変な対応に努める。	不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携し医療機関の受診やスクールカウンセラーの利用をすすめるなど、関係機関とも連携できた。												

4	(6)	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価85%以上 「子どもが学校で人権問題について学んだことを、家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価45%以上	生徒の肯定的評価は90.4%で、目標を達成することができた。保護者の肯定的評価については46.4%で目標を達成することができた。	A	人権学習ホームルーム活動に対する評価が非常に高く、日常生活において人権を尊重しようとする姿勢が見受けられる。「協高入権の日」の運営についても、身近な人権問題をテーマに取り上げ生徒主体で行うことができた。	○生徒が人権問題についての学びを、日々の生活に反映させられるよう、生徒の身近な内容を取り上げたり、家庭との連携をより一層図る等の工夫をしたい。				
				2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上 「すべての教育活動の中で、人権に配慮した指導ができています」教職員の肯定的評価95%以上	生徒の肯定的評価は91.3%で目標を達成することができた。教職員の肯定的評価は100%で高い評価となった。							
			活動計画	1	人権問題をより身近なものとして捉え、実践的態度につなげるために、人権委員が主体となり「協高入権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また、その日のテーマを家庭でも共有し、広がりある人権教育に結びつける。	「協高入権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が1～2クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで、主体的に資料作成に取り組む姿勢が見られた。「人権の日だから語る会」への人権委員・人権同好会「虹」の生徒以外の参加者は少なかった。							
				2	生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また、多くの教員が指導に関わるように工夫する。これらの活動を柱に、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。	人権ホームルーム活動の指導案や資料の準備に関して、各学年の担当者を中心に十分に検討して進めることができた。全15クラスで副担任の教員がホームルーム活動を行う機会を持つなど、多くの教員が指導に関わることができた。							
		(7)	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	評価指標	1	「修学旅行・文化祭などの学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上				生徒の肯定的評価は92.3%であった。	B	修学旅行は計画通り実施することができた。文化祭は保護者への公開を実施することができ、生徒の活躍する場を広めることができた。ミライ文化祭の開催も決定しており芸術や文化に触れる機会を提供できた。	○芸術や文化活動をする機会は回復してきている。コロナ禍で習得したことを生かしつつ、今後もどんな状況下においても、創意工夫し積極的な取り組みができるようにしていきたい。 ○生徒アンケート結果からは読書への親しみ・社会的ニュースへの関心については目標を達成できた。今年度、トイレ改修工事等で図書館を活用した授業が減少したことも影響したと思われる。次年度はぜひ改善したい。
					2	「普段から読書に親しんだり、新聞等の社会的なニュース記事を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価60%以上 図書の出し出し数・入館者数の増加				アンケート結果によれば、64.8%の生徒が肯定的な評価をしており、上記の目標は達成できた。ただ、図書館の貸出数・入館者数は双方とも昨年度より減少している。			
	活動計画			1	修学旅行・文化祭などの学校行事の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	修学旅行は計画通り実施することができた。生徒は文化祭や文化部活動等、芸術や文化に触れる機会を積極的に持とうとしていた。							
				2	読書推進週間を設け、図書館だよりの充実や読書の推進を図る。	ビブリオバトル、クラス読書会の実施に加え、放課後読書会を開催したり、図書館だよりで図書委員や先生方のおすすめ本を紹介したりして、読書推進を図った。							
	(1)		業務改善と意識改革	評価指標	1	「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価80%以上。	教員の肯定的評価56.4%で昨年度から16%減少しており、目標は達成できなかった。	C	部活動指導・進路指導と働き方改革との両立は難しい。尽力している教員が報われる報酬等は検討できないか。	○報告・回覧ですむ会議等を洗い出し、業務縮減に努める。 ○各分掌間で連携して行事の精選や見直しを検討するとともに、各分掌内でも、課員個々が抱えている業務量を勘案して業務分担を見直すなど、業務の平準化に努める。 ○入試対策の指導を組織的・計画的に行うよう更に努める。 ○週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。			
					2	時間外勤務時間が、年平均で月45時間以内。	1月末現在で46.1hで目標は達成できなかった。また、48名中18名が45を超えている。						
				活動計画	1	日常業務の効率化を図るとともに、会議の精選や会議時間の短縮を推進する。	今年度も補習日数の削減など昨年に引き続き業務縮減に努めたが、根本的な改善にはならず、多忙感を払拭するには至らなかった。						
					2	勤務時間を意識した働き方を推進するとともに、週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。	週末の部活動について時間短縮するための取組ができなかった。推薦入試等に向けての指導の効率化への取り組みができなかった。						